

評価・提案テーマ		③水質保全	
事業名	③ 河川浄化対策事業	担当部署	市民部・地域環境課・環境保全担当
市の取組への評価・課題		具体的な対応策・提案	コーディネーターによる意見のまとめ
<p><b>【評価〇】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水は都留市の大切な地域資源であるので、河川浄化対策は大いにやってもらいたい。</li> <li>・家中川クリーンプロジェクト等によって、まちに活気があるように感じられる。家中川は単なる水路ではなく、きちんと手入れがされていれば、観光スポットとなる。</li> <li>・薪で作られたオブジェは温かみがあり、良い雰囲気が出ている。実際に家中川お歩いていると、鯉を眺めて足を止めている人が多くいる。観光客のためのスポットだけでなく、市民の憩いの場になっていると感じた。</li> <li>・鯉の放流イベントや環境教育等、子どもたちを巻き込んだ企画は、効果的と評価できる。</li> <li>・水質調査の結果をみると、この10年間で川が非常に綺麗になったことは、浄化槽の普及や環境教育など市の取り組みの成果だと評価できる。今後も20年後、50年後を見据えて取り組みを推進してほしい。</li> <li>・都留と言えば、平成の名水百選に選ばれた、十日市場・夏狩湧水群をはじめとして、「水のまち・都留」というイメージが定着している。今後もCATVやSNSなどを活用する中で、河川浄化の取組の成功例や水質検査の実績等を紹介したり、不法投棄防止や浄化槽の定期検査等を広く啓蒙していただきたい。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小、中学校、事業者を対象に環境に関するアンケートを実施したとのことであるが、これを施策にどのように活かすかが課題である。</li> <li>・目標設定は難しいが、水質検査の結果において大腸菌等の数値を改善させるような目標値を設定したらどうか。目標値を設定すれば、やりがいにも結びつき、どこに向かえばよいのかフォーカスがしっかりするのではないかと考える。</li> <li>・水質汚濁の要因の一つとして、単独浄化槽のメンテナンス不足による機能低下が挙げられるが、市民の認識度が弱く感じるので、市民への啓蒙や浄化槽の定期検査を促す仕組みが必要か。</li> <li>・昔からある川にゴミを捨てる習慣は、今後推進していく移住促進に大きなマイナスイメージになる。広報等による呼びかけや清掃活動はもちろんであるが、川にゴミを捨てる人には、もっと厳しい措置を検討する必要がある。</li> </ul>		<p><b>■”みんなで都留市をキレイにプロジェクト”の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都留市では、伝統的に定式を行っているが、その他に「居場所づくり」に参加の高齢者や各団体に呼び掛けて、年に1回、市内の大掃除の日を作ったらどうか。</li> <li>・浄化槽の定期検査を行っている家庭には、市からステッカーを付与して玄関等に貼ってもらったらどうか。</li> <li>・ゴミ拾い等の清掃活動のやる気を出すために、SNSに清掃前・清掃後の写真を掲載して、つるビーがリプライ(褒める)するようにしたら、取り組みが盛り上がり、若者の参加率も上がるのではないかと。これによりTwitterで拡散し、ループ的に活動が広がれば、新しい展開が期待できるのではないかと。</li> </ul> <p><b>■学校・幼稚園・保育園による河川クリーンラリーの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと親を巻き込んだ学校、幼稚園、保育園とともに、河川クリーンラリーを実施し、当番制で河川の清掃とゴミ拾いを行ってもらったらどうか。</li> </ul> <p><b>■居場所づくり事業・健康ポイント制度との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所づくり事業で水に関する講演会を開催したり、老人クラブ、自治会も子どもたちによる河川クリーンラリーに参加してもらい、参加すると健康ポイントがもらえる仕組みにしたらどうか。</li> </ul> <p><b>■他イベントとのコラボレーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なるゴミ拾いのイベントでは興味が持てないので、フットパス等を行い、イベントの最後にゴミ拾いをしたり、婚活イベントを開催して、川遊びをしてから、最後にゴミ拾いをする等、他のイベントとコラボレーションすれば、環境美化に興味がない人も参加するようになるのではないかと。</li> </ul> <p><b>■マスコミ等の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコミ・SNS等を使い、取組により河川が綺麗になっていることを大々的に市民等にお知らせするとともに、各イベントに参加し、河川浄化に貢献している学校や自治会、老人クラブなどの方をじょいつる市場で表彰したらどうか。</li> </ul> <p><b>■都留文科大学研究者との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都留文科大学の初等教育学科の中には、十日市場・夏狩湧水群の水質調査を行う教員や学生がいるので、大学と連携して水質保全に取り組めないかと。</li> </ul> <p><b>■浄化槽の適正管理への仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浄化槽の管理不全を市でチェックできる仕組みを検討したらどうか。</li> </ul> <p><b>■不法投棄対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に不法投棄が多い地域には防犯カメラを設置したらどうか。また、有料となる産業廃棄物等が不法投棄の要因となっていることを踏まえ、事業系の有料ゴミを無料で処理できるようなキャンペーンを実施して見たらどうか。</li> <li>・不法投棄に際しては、捨てる側としてはゴミがなく綺麗なところには、捨てづらく、汚いところには捨ててしまう心理がある。まず綺麗にして、見た目には働きかけという意味では、常に綺麗にしておくということを意識して取組みを進めていただきたい。</li> <li>・ゴミの不法投棄が多い箇所は重点的にパトロールを行っていることを周知した上で、氏名公表や通報制度を取り入れて見たらどうか。現状のところ、大規模な不法投棄以外、何ら罰則が適用されていないことが、不法投棄を放任に繋がり、改善されない理由になっているのではないかと。</li> </ul> <p><b>■子どもへの環境教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、学校・幼稚園・保育園などの子ども達に対して環境教育を充実して実施しているが、親たちの意識改革として、それを親たちに伝えてもらい、家族でポスターを作ったり、家族の考えを学校で発表して見たら効果的ではないかと。</li> </ul>	<p><b>■川と人との距離感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の提案では、河川対策の決定打となる提案・意見は無かったが、全体的に共通して、イベント開催、環境教育、子どもの教育から親に対する社会教育というような話で、川と人との距離感の話が多かった。</li> <li>・現在は、残念ながら川と人との関係性が遠いので、これを近づけるように中長期的な取り組みが必要となると考える。</li> </ul>